

還暦記念 四国八十八ヵ所遍路の旅の記録

第九代・清水茂久



【第4弾 結願まで・平成18年11月26日発】

(伊予・菩提の道場から讃岐・涅槃の道場へ)

1. 出発まで

4回目となる今回の遍路も、6月以降期間が決まらず、当初は10月下旬の予定であったが11月下旬にずれ込んでしまった。しかし、その方がかえって少し寒くなり歩きやすく、宿なども空いていて良かったのかも知れなかった。

いよいよ愛媛県の『菩提の道場』から香川県の『涅槃の道場』へと向かうが、「心の修業」は一向にはかどらず、今回も何とか無事に結願出来ればと思っている。実際に歩いてみないと何とも言えないのだが……。

前回までのレポートを友人・知人の方々に見て頂いたのだが、多くの方から「私も行ってみたい。」「是非一度回って見たい。」と言う声も多く見られた。

加えてNHK教育テレビの趣味悠々での『はじめてのお遍路』、また11月からのNHK総合テレビのドラマ『ウォーカーズ』が放映され、自分にとっても今回はなんとしても結願したいという思いが強くなる。

また、先輩の青木さんや前回出会った浜上さん・宮本さんなどからも、いろいろな情報を交換したり、頂いたりした。

出発当日の11月26日(日)は、早めに自宅を出て妻と町田で食事をし、新宿駅に向かう。新宿は相変わらずの混雑で、京王百貨店裏のバスターミナルも次々と発着するバスの出発を待つ人であふれている。6時前に着いたので地下の喫茶店でおいしいコーヒーを飲み、高ぶる気持ちを抑えながら、青木さんや浜上さん・宮本さん、前々回出会った楠田さん・金川さんなどに出発のメールを入れる。

2. 第1日目＝11月27日【月】曇りのち雨 歩行距離31.3km

バスの中では良く眠ることができ、快調な朝の出発となる。

定刻の7時に松山市駅に着き、JR松山駅まで市電で移動する。松山駅では列車を待つ20分間に、駅構内の喫茶店でモーニングサービスの朝食をとる。

多くの学生などと共に列車に乗り、半年振りの懐かしい伊予和気駅で下車し、8時丁度に歩き始める。

前回最後に打った第53番札所円明寺（えんみょうじ 8:05）では、大門の前で再開の挨拶をする。次の54番までは34ヶ所もあり、今日は途中の大西町までの予定で、遍路姿はせずに私服で歩く。

海沿いの国道を東に進み、堀江港を過ぎた頃雨が強くなり雨具を着ける(10:55-11:05)。JR予讃線と海岸の間の国道を栗井・柳原・伊予北条と黙々と歩く。

ここから半島の山道に入り賑やかな寺院の【鎌大師】の上りにかかる。この頃から右足の甲が靴の圧迫により痛くなり、テーピングテープを貼って痛みを和らげる。再び海岸線に出て、浅海（あさなみ）を過ぎると海岸の脇に「海賊うどん」があり、昼食を摂る(12:45-13:15)。

更に海岸沿いを進むが、瀬戸内の海は波が静かで土佐の海と比べると非常に優しい感じがする。【遍照院】を過ぎると瓦の街菊間町に出る。屋根がどの家も立派な瓦葺で町並みが美しい。

今日も最後の5ヶ所位が疲労と足痛で苦勞する。気持ちの問題なのか？大西駅に近づくと来島ドックの大きな船体が良く見えてきてホッとする。

駅前の『あさひや旅館』は旅館とはいえ民宿のようで設備が良いとは言えないが、宿泊者一人で、料金も安く親切なもてなしであった。



3. 第2日目＝11月28日【火】曇り 歩行距離28.6km

朝は暗いうちに目を覚まし出発の準備を急ぐ。今日は天気も良くなりそうで、気温も寒くなく歩き出すとすぐに汗がにじんで来る（宿 6:50 発）。

国道196号線のバイパスを進み、脇に入ると田んぼの向こうの第54番札所延命寺（えんめいじ 7:40-8:10）に着く。ここで白衣など整え今日の最後まで通す。

正面に本堂、左上に大師堂があり、その境内には『延命十訓』や『長寿の心得』を織り込んだ今治特産のタオルを売る店もある。

朝早いせいか静かな寺である。半年振りのお経もたどたどしい。

そこからひとやま越えて、市立の霊園の中を通り過ぎると今治市内に入り、駅近くに第55番札所南光坊（なんこうぼう 9:00-25）がある。

大きな山門がそびえ、ご本尊は大通智勝仏（だつちしょうぶつ）と珍しいものである。親切な寺の人に道を教えられ次を目指す。



今治駅の脇を通り、田んぼと人家の間を真直ぐに約3.4^{km}歩く。やっと右手に小さな山が見え、第56番札所泰山寺(たいざんじ 10:10-30)に着く。

鉄筋建ての大きな宿坊を備え、新しそうなお寺である。

ここを出るとすぐに、甘酒のお接待があり美味しく頂く。

更に奥宮龍泉寺(りゅうせんじ 10:40-50)に寄ると、茶菓のお接待に加え、お金を払うつもりで頼んだコーヒーも接待され面食らってしまう。

田んぼの畦道を抜け、蒼社川を越えると少し登って第57番札所栄福寺(えいふくじ 11:35-55)に着き、かなり近くに次々と札所が続いている。

この札所もこじんまりとまとまった、小さなお寺である。更に山道を登り、大きな溜池の淵を通り車道の坂道を上ること1時間で、山の上にある第58番札所仙遊寺(せんゆうじ 12:50-13:20)に着く。

最後にきつい登りが山門から続いている。仙人も遊んだと言うだけあり、山奥深い感じで展望も優れて雰囲気の良い寺である。

宿坊の方には足湯もあり歩きの男性が2人入っていて、私も足湯に誘われたが靴を脱ぐのも面倒だし浸かるのは止めて先を急ぐ。

急な林の中の尾根道を下ると市街に出る。予讃線に沿った国道を東に進み6^{km}歩いて第59番札所国分寺(こくぶんじ 15:00-21)に着く。古く格調の高い寺である。

早々と納経を済ませ、6.6^{km}先の宿までずっと国道が続く。やはり最後は疲れてきてやっとの思いで『休暇村瀬戸内東予』に入る(16:50)。

既にあたりはうす暗くなって、美しいだろうと思われる瀬戸内の海は見られない。それでも宿は新しくきれいで宿泊者も多いが、遍路ものにはふさわしくない様な感じである。

温泉に入った後、バイキングの夕食では、ビールを飲みながら新鮮な魚介類をお腹が一杯になるまで食べる。

この日は左足の付け根の外側に鈍痛がおこり、明日の遍路転がしの横峰寺への登りに支障が出ないか心配である。



4. 第3日目＝11月29日【水】晴れ時々曇り 歩行距離31.3km

今日の行程を考えると、7時からの朝食バイキングを待っていると非常に厳しくなりそうである。そこで5時過ぎに起きて準備をし、6時にフロントで精算を待つ。ロビーでは温泉に行く浴衣姿の方もちらほら見られる。

結局、6時35分に精算が終わりすぐに出発する。外に出ると、目の前に夜明け前の静かな海が広がっている。宿が地図上のルートから少し外れたため、だいぶ遠回りだが解かり易い国道196号線を延々と約15km歩くことになる。

昨日からの左足の付け根が少し痛みだした。壬生川から小松に入り、横峰への登り口・大頭に着く(10:20-30)。ここから約8kmを湯浪(11:40)の先の車道終点(12:00-10)迄と、その上からの山道を登る。

例のテレビでの遍路ころがしのコースである。まだ一昨年の大雨の被害を受けた後が所々に残っている。最初の沢沿いの道はゆるやかだが、檜林に入ると傾斜がきつくなり最後はバテ気味で第60番札所横峰寺(よこみねじ 13:30-14:30)の仁王門の前に出る。

途中のコンビニで朝食、昼食にパンとオニギリで済ませたものの、約23キロに7時間かかってしまった。

先に番外霊場(奥の院)『星ノ森』に登る。弘法大師がここで厄除けのための星祭の行を修されたと言われ、石鎚山へ登る「かねの鳥居」があり、その間から石鎚山の荘厳なパノラマが見られる。

しかし、この日は雲が多く展望は無かったものの、雰囲気の良い所であり一人で静かに紅葉を楽しむ。横峰寺では3組の団体とぶつかってしまい、山の中の静かなお寺を味わう事が出来なかった。



しかし、納経も先にして頂き、お菓子のお接待を受け、下山道を丁寧に教えて頂く。境内には石楠花の木が多く、5月にはさぞすばらしい花が咲き揃うだろう。

太子堂の脇から車道を下り、途中から山道に入る。しかし次の札所まで10km近くあり、かなり飛ばして下ったもののいい加減あきて来る。3箇所程大雨のためのガケ崩れで迂廻路が出来ていて、下りには支障はない。61番の奥の院の脇を通り、第61番札所香園寺(こうおんじ 16:55-17:20)に着く。

最後は5時5分前に走って寺に向かうが、親切にも「そんなに急がなくても大丈夫です。」と言われホッとする。本堂は鉄筋3階建ての、まるで文化会館のような大きな建物である。

靴をぬいて中に入ると、中央に巨大な大日如来が鎮座し、脇に赤ん坊を抱いた大師像が立つ。薄暗い中一人で読経を終え寺を出る。この寺も古く格調の高い。

すでに5時半あたりは暗く、途中で通勤帰りの人に道を聞き、『ビジネス旅館小松』に入る(17:40)。宿は旅館とはいえあまりきれいではないが、遍路仲間では有名で、近くで肉店を兼業しているため、安くて肉の多い食事が付きボリュームも充分である。

この日は食べきれないほどの寄せ鍋と、牛刺しが出た。今日は岡山からの男性(定年過ぎ)と、釧路からの若い女性(今日は石鎚山に行って来た)と今回初めて一緒になる。共に通し打ちで29日目との事で、遍路を楽しんでいる様だ。しかし、ここまで29日目では観光はほとんど出来ないとこぼしていた。

足は相変わらず痛く、静かにしていれば問題は無いのだが……。まだ、3日目で足が慣れていないのか？

5. 第4日目＝11月30日【木】 晴れ 歩行距離33.4km

今日は朝食を摂ってからゆっくり出発する(6:40)。街は明るくなりかけて、寒さもほとんど感じない。すぐ10分もしないうちに小松駅の隣にある第62番札所宝寿寺(ほうじゅじ 6:50-7:10)に着く。

境内は広くないが、しずかな雰囲気のある寺である。住職の出勤を待って納経していただく。次もすぐ近くで、国道11号線を東に1.4km進むと森に囲まれた麓が見えてくる。

第63番札所吉祥寺(きっしょうじ 7:30-45)で、格調高い山門を持っている。本堂も相当古そう。車遍路の夫妻の方に写真を撮ってもらった。

ここから旧道の街並みを抜けて行くと、突然大きな鳥居が右手に見える。桜並木の広い参道がずっと奥まで続いている石鎚神社である。

神社の奥まで行こうと思って少し行ったが、相当広く時間も掛りそうなのですぐに戻り、その先にある第64番札所前神寺(まえがみじ 8:40-9:10)に向かう。



この寺は石鎚神社から分離した寺で、奥の院が石鎚山にあると言う。高台の上にあり、少し階段を登ると広々とした感じで奥に本堂がある。ここまで朝の涼しい内に予定の3ヶ寺を参拝でき、この後は白衣を脱ぎ、菅笠もザックに付けて帽子で歩く。

小松から石鎚温泉を抜け、伊予西条に向かって旧道を歩くが、石鎚山系の北側斜面の地形を利用した農業を中心に静かな良い街を眺めながら歩く。

しかし、4日目ともなると足の痛さも和らいで来る反面、防寒対策の衣類が多すぎるようでザックが重く感じられる。蜜柑でも自宅に届けられるような店でもあれば、一緒に送ってしまうのだが…。

仕方なく何度も気合を入れ直して、修業のつもりで歩を進める。蜜柑畑や田の畦道、小さな集落の中などの旧街道を進む。西条の加茂川の清流を渡り、「歴史の散歩道」「水の都の緑の道」コースをたどる。

山裾から国道に出ると激しい車の往来に苦しまれるが、コンビニや食堂など次々に出てきて何を食べて良いか迷ってしまう(昼食 11:55-12:20)。西条から新居浜市にかけてはかなり賑わっていて、全国チェーンの店も出ていた。



国道11号線と平行している旧道を交互に進みながら、坂道を上っていく四国中央市との境の関の戸峠である。その手前で喫茶店があり、Tシャツ1枚の姿で中に入り、おいしいコーヒーを飲む(14:40-15:05)。脱サラのご主人は最近の暖冬で温暖化を嘆いていた。

峠から旧道を真直ぐ下り、昔ながらの街並みを見ながら土居の町に入る。別格延命寺では庭先まで入ったが、時間も遅いのですぐに出てくる。そこからすぐで、駅前のこじんまりとした『松屋旅館』着く(16:45)。宿は家族でやっている古いがきれいな宿であった。

6. 第5日目＝12月1日【金】 晴れ 歩行距離30.0km

今日も快晴で、朝は少し寒くヤッケを着て出発する(6:40)。

今日の歩行距離は少し短いものの、この先どうなるか心配で歩く早さが、何時ものように早くなってしまふ。昨日の続きで旧街道を進む。多少の上り下りはあるが、家並みを眺めたり、通学生やお年寄りや朝の挨拶をしながら歩くのは楽しい。

途中コンビニで昼食を用意する(8:40-50)。紙の町伊予三島の郊外を通り、高台の旧道から高速道路(松山自動車道)を潜ると、旧遍路道に入る。

更に、銅山川発電所の脇を通り、登山口の戸川公園で一服する(10:35-10:45)。ここから山道に入り、蜜柑畑を登るルートは第21番の鶴林寺を思い出す。雑木林の急坂を登りきると、車道に出てすぐに伊予最後の札所・第65番札所三角寺(さんかくじ 11:45-12:20)の駐車場に着く。

正面の急勾配の石段を登ると、大きな仁王門が聳える様に建っている。境内は紅葉と黄葉が見事に盛りを見せて多くの人で賑わっている。

境内の真ん中に寺名の由来となった三角形の島を浮かべた小さな池がある。その左奥に本さらに一段上に大師堂があり、奥ゆかしさと格調の高さを感じる。私もしばら景色を楽しみながら、オニギリを食べる。

次の椿堂までは、約6kmありアスファルトの車道を何回も山肌を回りながら少しずつ下って行く。

歩き始めてすぐに、上って来たJAの車が突然止まり、車の中から若いお姉さんがお煎餅を2枚お接待してくれる。

しばらく歩いて山を下ると更に、大きな家構えの前に止まった車から、親父さんが『大変だろう、持って行きなさい。』と缶コーヒー2本とお茶のペットボトルを取り出し接待を受ける。私は、納め札を渡し感謝の意を表す。

歩き疲れ頃、やっと番外霊場常福寺(椿堂)(じょうふくじ 14:00-25)に着き、早々と参拝するも、納経の際『歩き遍路さんには納経料を接待させていただきます』との事で、感謝の気持ちで後にする。

この椿堂は小さなお寺だが、椿がいっぱい植えられよく整備されている。ただ、地元の老人の大きな声の読経が非常に耳障りで、静かな雰囲気は壊されたのは残念であった。

ここでオートバイの埼玉からの女性遍路さん(4巡目で50才代?)に初めて逢い、その後、今夜の宿や76番金倉寺・高野山の街中で偶然出会うことになる。

いよいよ今日の最後は国道をだらだらと登り、愛媛・徳島県境の境目峠の下を通る境目トンネルを抜ける。気力をふりしぼり、周囲の見事に染まった黄葉を楽しみながら……。



やっとの事でトンネルを越えると、徳島に入る（すぐ香川県に入るのだが）。なんとはるばると来たものだ。菩提の道場もヤット終わりかと思うと、気力と体力を助けてくれた多くの方々に感謝の気持ちが湧いて来る。

国道を下り旧道の町並みに入ると、すぐに『民宿岡田』に着く(16:00)。本日は久しぶりに6名もの同宿者があり、夕食後オヤジさんを囲んで賑やかな遍路談議に花が咲く。

親切なおヤジさんを見ていると、この民宿の人気の素がわかるような気がして来る。決してきれいで素晴らしい設備もないが、心のこもったもてなしに感謝・感激の一夜であった。

7. 第6日目＝12月2日【土】 曇り時々雨 歩行距離33.8km

12月になり、朝はかなり冷え込みゴアジャケットを着て出発する(6:35)。

親切なお宿の親父さんは、朝の忙しい中、出発する一人ひとりを見送っている。私も親父さんと一緒に記念写真を撮り、丁寧に道を教えていただく。

まだ暗い中を3名の女性と前後して歩く。道しるべに導かれながら、急な坂を登り、山腹をかなり長く巻いて、稜線の車道に出る。昨日通った県境のトンネルの上から続いている道である。

車道を更に3kmゆるやかに登り、辺りの木々が杉や檜、樅・栂など巨木が多くなると、目指すお寺も近い。

寺の裏から回りこむように「四国高野」とも呼ばれる、第66番札所雲辺寺(うんぺんじ 8:30-8:55)のこじんまりした仁王門を潜る。ここは四国八十八ヵ所の中で、最高所の標高910メートルであり、まさしく雲の辺(ほとり)である。

山上の大きな寺で建物も多く、ロープウェイと車の遍路の方も次々と訪れて来る。早々と納経を済ませると、丁度昨夜同宿の北海道の女性と一緒にの出発になり、次の札所まで話しながら歩く。

皆いろいろな悩みを持って歩いているが、自分はまだ幸せなのか？ この頃から雨模様になり、その後強く降ったり止んだりで、風もずっと強く、いやな一日であった。

登り道に比べて、下りは快適で斜面の勾配と、雰囲気も特に好かった。最後の雑木林から農道に出た所で、車で登山に来た親娘に会う。『この雨模様では止めようか？』と迷っている。



通りかかって挨拶すると、「少ないですが」と、100円の接待を受ける。なんら関係もないのにと、感謝の気持ちで一杯になる。

高原野菜畑の中の農道をずっと歩くが、9.4kmはやはり長い。それでも休まずに歩くと、大きな茅と楠の巨木のある第67番札所大興寺(たいこうじ 11:20-40)に着き、急な石段を上る。本堂は修復工事中で、参拝は本堂を兼ねた太子堂です。雨が更に強くなり、立ったまま宿で貰ったオニギリを1個急いで口に入れ、すぐに出発する。

ここから8.7kmで観音寺であるが、途中さぬきうどん屋(12:40-13:05)に寄っただけで、ただ黙々と一本道を歩く。このあたりは溜池が多く、その間抜けて行くと少し寂れたような観音寺の街に入る。財田川の長い橋を渡り、琴弾八幡宮の先に第68番札所神恵院(じんねいん)・第69番札所観音寺(かんおんじ 14:00-35)が一つの境内に共存している、「一山二霊場」の珍しい札所に着く。

大きな仁王門を潜ると、広々とした境内の中央に樹齢千年の楠木、その左に68番・右に69番の札所が並んでいる。

ここでは若者や団体の遍路も多く賑わっている。納経は二カ寺を一カ所で済んだので助かる。時間があれば、この琴弾山の山頂にある『番外霊場琴弾八幡宮』と、銭型砂絵で有名な『琴弾公園』にも寄りたかったが、まだ先が長いので寄らずに進む。

財田川に沿って、堤の上を川面を見ながら約 1 時間歩く。橋を渡るとすぐ目の前に第 70 番札所本山寺(もとやまじ 15:40-16:05)がある。

平野のど真ん中に建った古刹で、風格のある五重塔が遠くからでも見渡せる。

弘法大師が一夜で建立したとの伝承をもつこの寺は、「馬頭観音」を本尊とする珍しい寺である。ここで 4 時を過ぎてしまい、今晚の宿まであと 6.2 ㎞を延々と歩く。

風が強く時折雨も混じり暗くなる中、国道 11 号を急ぐ。5 時過ぎに宿のおばさんから電話が入り、宿の近くまで迎えに出てくれる (17:35 着)。



宿は古くてあまり綺麗ではないが、心温まる対応に感謝の夜であった。夜はテレビで『ウォーク・ザ・ボーイズ』の最終回を見る。今日と明日の行程の札所がいくつか出ていた。今日は本当に随分と歩いてばかりいた 1 日であった。

8. 第 7 日目＝12 月 3 日【日】 晴れ 歩行距離 31.3 km

今日も寒い中を宿のおばさんに見送られて出発する(6:40)。

明るくなりかけて旅館の前の車道を真直ぐ山に向かっての登りになる。「いやだに温泉」のすぐ脇から細い山道となり、戸が閉まっている俳句茶屋の前を通り、奇怪な岩壁を背にした第 71 番札所弥谷寺(いやだにじ 7:55-8:35)に着く。何処か 45 番札所の岩屋寺と似ている様な感じがある。

何しろ階段が多く、右に左にと登って行きやっと本堂にたどり着く。どの建物も岩にめり込む様に建てられ、古い磨崖仏も珍しい。

今日は日曜日で参拝者も多く、靴を脱いで上がる大師堂では列を成している。下りは山道になり竹藪の間を駆け下りると、高速道の下を潜り農道に出る。

丁度朝のランニングの若者に道を教えられ、話しながら曼荼羅寺の分岐まで来て分かれる。すぐ上に第 73 番札所出釈迦寺(しゅっしゃかじ 9:20-40)を先に参拝する。

こじんまりとした静かな寺であるが、1.5 ㎞先に(標高差約 250 M)捨身ヶ嶽禅定が見える。納経所で聞くと往復 2 時間位かかると言う。



空海が幼少の頃修業した場所を見たかったが、残念ながら今日の予定では無理である。是非次の機会に行きたいと思う。坂道を下ると露店に袋に入った蜜柑が積んであり、200 円で求め歩きながら食べる。

すぐに第72番札所曼荼羅寺(まんだらじ 9:55-10:20)に着く。

この寺は以前大きく枝を伸ばした笠松で有名であったが、今は枯死した大きな幹に大師像が刻まれている。池に架かる石橋を渡り、先を急ぐ。

田んぼの中にこんもりと木を繁らせた甲山を目指す。第74番札所甲山寺(こうやまじ 10:45-11:05)は、山裾にひっそりと佇むように建っていて、納経も急いで済ます。弘田川の橋を渡り、少々寂れた様な静かな町並みに入ると、突然賑やかな雰囲気に変わる。真言宗の総本山の一つ第75番札所善通寺(ぜんつうじ 11:30-12:20)である。

東西二つの院に分かれた広大な境内の本堂と御影堂があり、五重の塔など豪壮な堂宇が並んでいる。

さすがに観光客も含め、ものすごい参拝者である。どこか長野の善光寺に似ているように感じである。

大師堂を兼ねる御影堂の下の暗黒の戒壇巡りに入るが、何も感じるものはない(まだ修業が足りないのか?)。

ここで写真をとったりして50分を使ってしまう。その時午後のコース表を見ると、予定の77番から78番の間が4^分となっている。改めて調べるとなんと7.2^分あり、時間が足りないことが解かる。



そこで急いで善通寺の街を抜け、第76番札所金倉寺(こんぞうじ 13:110-45)に参拝する。更に田んぼの中を第77番札所道隆寺(どうりゅうじ 14:30-45)へ、ここは目の病に霊験があると言うので、妻にお守りを求める。

県道を一路東へ進み、丸亀城を右に見ながら市内を抜け宇多津町に入る。県道を右に入り坂を上ると『厄除けうだづ大師』で親しまれている第78番札所郷照寺(ごうしょうじ 16:10-35)に着く。ここまで本当に両足のスネの筋肉が痛くなるほどよく歩き、納経もそれぞれ早々と済ませる。

再び県道に出て予讃線の高架を潜ると坂出市に入るが、新しい道が出来ていて良く分らない。丁度散歩に来ていた方に道を聞くと、公園の中を通り市内まで一緒に歩いてくれ、ご自宅でミカンのお接待まで受ける。

また、薄暗くなりかけた坂出の旅館の近くでは、立ち話をしているおばあさんに挨拶すると呼び止めら『よく遠くから来た』と、200円のお接待をいただく。

旅館は小さいが清潔な宿(17:20着)で、今夜の泊りが自分一人にもかかわらず親切な夫妻がこまやかに気配りをしてくれる。

食後、妻の叔父の好井さん(松江に単身赴任中)と高松のその奥様から電話が入り、奥様が『明日の6時に宿に迎えに行きます。』とのことで、恐縮するが、また楽しみでもある。

9. 第8日目＝12月4日【月】 晴れ 歩行距離33.4km

いよいよ結願迄残りもわずかとなり、今日も良い天気であるが、ハードな行程で距離・標高差とも目いっぱい計画となっている。

また夜には好井さんとの約束もあるので、宿に約束の時間までに着かなければならない。

旅館(6:30 発)から坂出駅前のアーケード街を抜け、予讃線の踏切を渡ると郊外の静かな遍路道に入る。すぐに綺麗な水が湧き出している番外霊場「八十場の水」の脇を通り、そのまま山道に入ると最初の札所第79番高照院(こうしょういん 7:10-40)に着く。

早朝で境内はひっそりとして、静かに読経をする。天皇寺とも言い、白峰宮が境内の奥に建ち崇徳上皇ゆかりの寺である。山門の代わりに大きな鳥居が建っている。

次の国分寺までは田園地帯を通る旧道から、綾川の橋を渡り、山裾を大きく巻きながら国道11号線進む。国分駅を過ぎると広大な境内で、五重塔もある第80番札所国分寺(こくぶんじ 9:05-35)に着く。

阿波の第15番・土佐の第29番・伊予の第59番に次ぎ4つ目の国分寺である。大師堂は屋内にあり、納経所と遍路用品の売店も一緒に珍しい造りである。

ここからいよいよ五色台の山に向かう。車道が過ぎると山道になり傾斜がきつくなる。流石に12月とはいえ、晴れていると汗も流れ出す。

やっと一本松でスカイラインの車道に出る。山岳地帯に入ると、なかなか地図だけではコースが想像出来ず苦労する。

途中自衛隊の演習地の脇を通過するが、いつの間にか道しるべに導かれ演習地に入ってしまう、隊員の誘導で外に出してもらう。



それでも地形がつかめると、案内板だけで進める。再び深い山道に入り小さく上り下りし、最後に大きく下って第81番札所白峰寺(しろみねじ 11:20-45)の駐車場の前に出る。本堂と太子堂が山の上であり何回も階段を上り、参拝に苦労するほど大きな寺である。紅葉は終りかけていて、名残だけ感じる。

元来た道を約1.1km戻り、巻き道をアップダウンを繰り返しながら次に向かう。途中(12:20-35)野宿遍路の神戸の柴田さんに会い、昼食に砂糖をつけた食パンを頂く。

70歳を過ぎた柴田さんは今回で7周目だそうだが、非常にお元気だ。この後も随分と急ぎ、車道を横切ると間もなく紅葉の絨毯で名高い第82番札所根来寺(ねごろじ 13:20-45)に着く。

しかし期待していた紅葉は盛りを過ぎ、落ち葉ばかりである。仁王門を抜けると一度階段を下り再びその3倍も登るといふ、珍しい寺である。更に数十段の石段を上がると本堂があり、その手前に本堂を囲むように「万徳観音堂」がある。小さな観音様がずっと並んでいる。

今日最後の札所まで約12kmである。果樹園の間を、車道と所々に付けられた山道を下り、予讃線の踏切を渡る。田園地帯を抜け、香東川の橋を渡り、国道11号の上を走る高速道を潜ると、高松市の郊外の住宅地である。街の中の入り組んだ旧遍路道を捜しながら、道を尋ね進む。

最後は5時の納経に間に合うように駆け足になる。それでも何とか10分前に第83番札所一宮寺(いちのみやじ 16:50-17:05)に着く。

丁度団体遍路が3組も到着したばかりで、納経所が非常に混んでいたが、大きな声で先に納経をお願いする(ラッキー！)。

ここが義母の生家から一番近い札所かと思うと、読経にも熱が入り感慨深い。昔は田んぼの中の大きな森に囲まれ、遠くからでも良く見えたであろう。今は街の中のこじんまりとした寺である。

すぐに宿の“天然温泉きらら”に行く(17:20着)が、別棟の宿泊施設は事務所のような部屋で、寂しい限りである。

それでも予定通り好井さん親子が車で迎えに来てくださり、義母が生家まで案内していただく。

生前義母が良く話していた様に昔から続いた大きな屋敷である。仏壇に手を合わせていると、喜んでいる義母の顔が思い出され、涙が止まらなかった。

その後すぐに、五剣山の麓にある地元で一番美味しいと言われている『山田やうどん』までわざわざ行き、美味しい讃岐うどんとビールをお腹一杯ご馳走になる。

いろいろと話も尽きなかったが、9時前に宿に戻り再会を約束して別れる。

宿では、きらら温泉に入り、少し腫れ上がっている左足をマッサージする。



10. 第9日目＝12月5日【火】 晴れ 歩行距離31.9km

いよいよ最終に近づき気持ちも高ぶってくるが、出来るだけ『今日一日だけの歩き』を考える様にす。しかし、ここ数日左脚の脛の下部分が腫れて来て、テーピングで何とかカバーしている。

髭も1cmくらい伸び、疲れもピークになっている頃である。

昨夜は遅く寝たのに5時過ぎに目が覚め、そのまま準備をして宿を出る(6:35)。高松市の郊外から市内に向かう。

栗林公園の正門の脇を通り、途中で喫茶店に入る(8:00-15)。朝食を兼ねて久しぶりの美味しいコーヒーを飲みトーストを食べる。

高松の中心街の瓦町では丁度通勤・通学の時間帯で多くの人々が行き交い、都会の混雑を思い出してしまう。但し自転車も多かったが。

大きな川を3つ渡り高松市内を東に抜けると、屋島への入口片本駅前に出る。

ケーブルカーの駅を右に分け、道しるべを確認し、急な細い道を汗をかきながら登る。屋島御加持水(おかじすい)を過ぎた所で朝の散歩で上から降りてきたおばさんにミカン1個のお接待を受ける(屋島からの下山後も、走っていた車が急に止まり買い物帰りのご婦人にリンゴを1個いただく)。

溶岩台地上のほぼ中央に第84番札所屋島寺(やしまじ 10:30-50)があり、立派な仁王門を持つ大きなお寺である。また、狸の夫婦の石像は愛らしい。

しかしお寺の裏側に抜けるとホテルや土産物店が閉鎖していて、観光客も少なくなっているようだ。屋島を横断する形で上りと反対斜面を下る。急な山道を注意しながら下ると源平古戦場の遺跡が多く残っているのでビックリする。いろいろな解説板が建っていたがさっと見るだけで、すぐに通過する。壇ノ浦をぐるりと回る形で目の前に聳える五剣山に向かって急ぐ。

牟礼町に入るとすぐに番外霊場の洲崎寺があり、ここに江戸時代の『遍路の父』といわれる信念の墓がある。ここから家並みの中を少しずつ上りになり、有名な庵治石の石材店が並び始めると八栗登山口に着く。

だがこの登山口のすぐ手前に、なんと昨夜讃岐うどんをご馳走になった、『山田やうどん』があるではないか。ちょうど昼時なので天ぷらうどんを食べる(12:00-25)。麺にコシがあり本当に美味しい。私が出てくる頃は何人も列を作って待っている程で、人気の程が知れる。

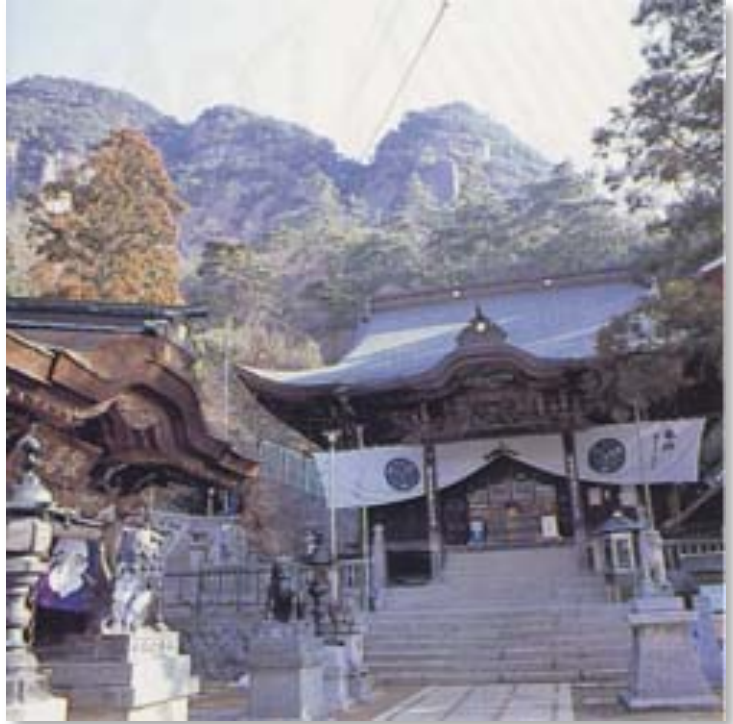
再び気を入れ直し、ケーブルカー(標高差約 140 m)に沿って細い道を登り始める。かなり急な道だがたいした距離もなく、第 8 5 番札所八栗寺(やくりじ 12:50-13:15)の山門をくぐる。

急峻な五剣山の中腹の地形を利用し、緑に囲まれた大きな寺である。しかし、ゆっくりしていられないので、早々と納経を済ませ山を下る。

車道を 3 ㎞ ゆるやかに下り、琴平電鉄の踏切を渡ると国道 11 号線に出る。しばらくして旧道に入ると海岸沿いを、志度湾をぐるりと回るように歩く。

途中の古い町並みの中にある、平賀源内の生家や資料館を外から眺めながら通過する。第 8 6 番札所志度寺(しどじ 15:00-20)も大きな仁王門を構え、五重の塔まである広く大きな寺である。

ここには歩き遍路の方も数名いて話をしたかったが、次の長尾寺に 5 時前に着きたいために急いで出発する。



志度の郵便局で 5 万円を下ろした後、一本道を間違えて車遍路道を進んでしまう。しかしすぐ気がつき、少し遠回りしたが長尾寺への路に修正して事なきを得る。

足も痛くなるが何とか我慢して前に進む。ゆるやかな登りだが苦しい。今夜の宿のおばさんから「まだ着かないのか。」と電話も入る。

それでも旧長尾町に入ると気合も入り、一気に第 8 7 番札所長尾寺(ながおじ 16:50-17:10)に着き、納経を先に済ませる。古い町並みに建つこじんまりとした寺である。倉敷からの若い通し遍路さん(森氏)と少し話し、仁王門のすぐ前にある宿に入る(17:15)。宿はあまり清潔とはいえないが、女将さんの親切なもてなしで心が和む。

とうとう 87 番まで来ることが出来たが、左足は少し赤く腫れ上がっていて、明日の結願を心配しながら床に就く。

11. 第10日目＝12月6日【水】 晴れ

歩行距離32.7km

今日はいよいよ結願の日であるが思いはそれほど強くなく、今までと変わらない朝を迎え、少し寝坊をしてしまう。朝食には『同行2人』にちなみ、黄身の2個入ったおめでたい生卵が付く。

出発の際、宿の女将さんからミカンとリポビタミンDのお接待を受け、外に出て見送ってくれる。寒さもそれほど厳しくなく、余裕を持つての出発となる(7:10)。

宿の脇から南の山に向かって真直ぐに伸びている道を進む。町のはずれまで来ると、鴨部川に沿って旧道を歩く。途中、昨夕87番長尾寺で会った遍路の森氏が追いついてくる。

しばらく一緒に歩くが早く歩くと私の足が痛むので、彼に先行してもらう。

前山ダムを過ぎると、「前山おへんろ交流サロン(8:20-30)」があり、お遍路に関する資料館のようになっている。そこで結願証と記念バッチをいただく。結願証は『990番』であり、今年中の通し番号なのか？

県道3号線からいよいよ山道に入り、標高差約350mの登りで峠を越え(9:35-40)、少し下り県道から続いている林道を少し歩く。いよいよ今日最大の山場と言われている女体山(標高774m)の登りにかかる。岩場の急斜面を這う様に攀じ登るハードなものだが、高さもなく一般登山道と大差のないもので、あっけなく山頂に到達する(10:30-35)。

記念写真を撮り、讃岐平野の展望を楽しみ、石碑に頭を下げて下山する。しかし、ここでベンチの脇にハッキリした道が右にあり、そのまま降りてしまうと、すぐに林道に出る。

大窪寺への標識を期待するが全くなく、尾根伝いに矢筈山にしばらく登る。方角がどうも違うのですぐに戻り、約25分のロスで済む。

車道を左に200mほど行くと、女体山への上り口と88番への下り口の標識があり、山頂では左へ降るべきであった。ここから急ぎ足で一気に急斜面を下り、番外霊場蔵峰への道を右に分け、待望の満願寺第88番札所大窪寺(おおくぼじ 11:30-12:10)に着く。

もっと山の上に建っているのかと想像していたが、実際は山懷に抱かれてかなり低い峠のような所にあり、門前には旅館や民宿・食堂・土産物屋などかなりの賑わいを見せている。

それでも結願寺であるだけに広大な規模や格調の高さなど、他の札所に比べ格段に優れ、独特の雰囲気があるように思われる。

着くとすぐに納経をする前に、今まで色々とお世話になった方々にメールを打つ。

それは『とうとう結願しました。多くの人に感謝し、思いやりの心を忘れないで、これからも精進していきます。ありがとうございました！』というもので、心から湧き出た今後の人生の糧に行きたい決意を述べたものである。



それに対しての、お祝いのメールも多くの方々から入る。妻にも電話で感謝の念を伝えると、胸がいっぱいになり、自然と涙が出てくる。

般若心経も特に丁寧に力強く読経し、ずっと共に歩いた納経帖も最後ページのお礼参り「1 番札所靈山寺」と、最初のページの「高野山奥の院」を残すのみで、1 番から 88 番まですべてが埋まる。

お寺の門を出ると、朝出会った森氏がちょうど食堂から出てきたので、10 番札所の切幡寺の近くまで一緒に歩く。

香川県から徳島県に入り、日開谷川に沿って続いている県道 2 号線とその旧道を歩く。だらだらとした下り道なのでよいペースで歩け、ずっと色々なお話しが続き、話題も尽きないうちに宿の近くまで来てしまう。

話の中で、彼も民宿岡田に私の前日泊まったので、彼が 5 日間で歩いた距離を私は 4 日間で歩いたことになる。これでは、私の足が痛くなるのは当たり前と、変なところで納得する。

やはり今日も最後の 3～4 キロは疲れて足を引き摺るようにして、宿にたどり着く(16:40)。金清温泉白鳥荘は第 3 セクターの静かな宿だが、洗濯設備がなく下着だけ手で洗う。

1 2. 第 1 1 日目＝1 2 月 7 日【木】 曇りのち雨 歩行距離 2 2. 9 km

今日は打ち始めの札所第 1 番にお礼参りをする日である。それほど寒くなく薄いジャケットを着てゆっくりと宿を出る(7:30 発)。

第 10 番札所には少し戻るようになるので、そのまま第 8 番札所近くに山裾の道を進み、一年前に通った懐かしい遍路道に出る。ちょうど第 7 番札所の前を通ると、去年のいちばん最初に泊まった宿坊は大きなビルに建替え中でビックリする。

その後、高速道路に沿って国道 12 号線をずっと歩く。第 5 番札所の南側には遍路無料宿があり、ちょっと覗いて通過する。この頃から雨が降り出し雨具を着けるが、寒さはなく気持ちは“晴れ”のため雨もこれまた“楽し”である。

第 3 番・2 番札所前は遍路道に戻り、第 1 番札所靈山寺の前に着く(12:35)。大阪への高速バスが 15 時半過ぎのため、少し先のレストランに入り、昼食にカツカレーを食べ美味しいコーヒーを飲み時間調整をする(12:40 - 13:50)。



一年ぶりの懐かしい打ち始めの第 1 番札所靈山寺(りょうぜんじ 14:00-50)に戻る。道中無事に巡拝し、結願できた事を報告する。最初に遍路用品を求めたすぐ横で納経すると、記念に数珠を頂く。『ああ、これで四国の順礼の旅は終わったのだ。』と、山門を出ると、すぐ前の信号の下で昨日会った倉敷の森氏が立っている。お互いに満願をたたえ合い握手をして別れる。高速鳴門西のバス停(15:15 - 42)まで歩き、定刻に空いているバスに乗る。

雨の中を淡路島から神戸を經由して、大阪難波に少し遅れて到着(18:25)する。大阪も雨で、難波高島屋のフロントで道を尋ね、雑踏の中をホテル南海なんばに入る(18:30)。ホテルに着くとすぐに川西市の浜上さんが迎えに来てくれ、6 月の遍路で一緒に歩いて以来の旧交を温める。

松山の道後温泉で別れてからの遍路の話や、近況、宗教や仏教の話題まで非常に懐かしく、話の尽きことはなかった。次は何時会えるか分からないが、再会を約束して別れる。

ホテルでは今までの事が色々と思い出されて興奮していたのか、暑くてなかなか寝付かれなかった。

13. 第12日目＝12月8日【金】曇り

昨夜の雨も上がり、多少寒さも和らいでいるようだ。昨晩は11時過ぎに寝たが何度も目が覚めてしまう。そこで、早朝の電車で高野山に行くことにし、5時半に起き、6時25分にホテルを出る。

南海なんば駅(6:30-56)から急行で橋本に向かう。早朝の下り電車のため車内は空いていて助かる。橋本(7:48-51)で極楽橋行きの電車に乗り換え、極楽橋(8:38-40)から急勾配を一気にケーブルカーで上がると高野山(8:45-50)に着く。

更に駅前に出るとバスが待っていて奥の院行きに乗る。そんな訳で山奥深く入った割には山上盆地(標高約900M)高野山の町までスムーズに着く。バスは金剛峯寺の子院とされる数々の寺院とその門前町の間を抜け、一番奥の「奥の院前」まで来る(9:05-10)。バスを降りると、既に多くの観光客が目立つ。

奥の院の入口に立ち、心を沈め丁寧に頭を下げる。参道は杉の巨樹が続き、丁度曇ってガスが流れ荘厳な雰囲気を作っている。御廟の橋を渡ると、聖地中の聖地であり、弘法大師の亡骸を祀っている御廟である。

灯籠堂で納め札を『四国八十八ヶ所納め札入れ』に入れ、静かな気持ちで礼拝する。裏手に回り、納骨堂と弘法大師御廟に最後の般若心経を唱え、家族の願い事などの祈願をする。これで納経帳の最初のページの『高野山奥の院』が埋まり、長い長い巡礼の旅の苦勞が報われた瞬間である。自然と顔もほころんで来る。

奥の院から一の橋までは死後の世界といわれ、400年から600年の巨樹の間に苦むした多くの歴史上の人物の墓地が並び、何か不思議な感じで歩く。一の橋でバス道路に出て、金剛峯寺に向かう。途中でバイク遍路の女性にバッタリ会い(道中5日目から7日目にしばしば出会った)、お互いの無事を確認する。

高野山真言宗の総本山金剛峯寺(こんごうぶじ)は、さすがに何か格調高い雰囲気に圧倒されそうな感じがする。飾り気をそぎ落としたような本堂の前で、静かにお経を唱える。弘法大師空海一人の影響が、脈々と1200年もの間続いて来ていることに改めて驚きを感じる。

本来なら先に壇上伽藍に行き、大門や金堂・根本大塔などに詣でなければならないが、すべてをここで回ってしまうと、何か今回のイベントが全く終了して心にぽっかりと穴が出来てしまいそうである。そこで今後の宿題として、またいつか2回目の巡礼に出たときにこの課題を解決出来るよう、何かしら継続して置きたいと思った。

町の中心街に戻り、昼食に蕎麦を食べお土産を少し買い(11:30)、そのままバスで戻るのも味気ないので極楽橋まで歩く。バス道を女人堂前(11:50)まで行き、旧遍路道の不動坂を下る。

実際は女人堂前からバス道は専用道路で歩行者と一般車は通行止めである。杉や檜の間をゆるやかに下り、周囲には誰もいない最後の一人歩きを楽しむ。

下に駅が見えると、大きく回り込むようにケーブルの下を潜り、駅名になっている極楽橋を渡り、駅に着く(12:20-42)。

静かな高野山から雑踏の難波(14:25-40)に戻り、新大阪(14:55-15:10)から新幹線にて新横浜(17:30)と乗り継いで、13日ぶりに懐かしい自宅に無事もどる。



☆ ☆ ☆ 総まとめ ☆ ☆ ☆

還暦の前後のこの2年間は、四国遍路の完遂のために、多くの本を読み色々な情報を収集し、そして4回に分けての歩き遍路に行き、またその振り返りと、忙しかったが非常に充実した日々でありました。

今は日本百名山の完登の時と同じように、心にぽっかりと穴が開いていて、何かをしようとする意欲が全く起きません。

考えて見れば、私にとっては、この巡礼と言う行為は「時間」「お金」「体力」のどれが欠けても成し得ない、非常に“ぜいたくな遊び”と言われても仕方ありません。確かに毎日30km以上を歩くつらい修業？でありましたが、今振り返ると多くの人々に助けられ、多くのお接待を受け、決められたコースを1日毎に目的地まで歩くことで満足していただけかも知れません。まるでスタンプラリーのように！！

しかし、約1,400円と云われているこの遍路を完全歩きで結願し、現在得たものは満足感しか湧いて来ませんが、今後この経験を糧に、結願の際決意した『感謝と思いやりの心をもって精進する。』を实践できるよう日々心掛け、将来この経験がきっと役に立つよう生きて行きたいと思います。

この遍路を通じて非常に多くの人達にお世話になり、また助けられ感謝の気持ちでいっぱいです。きっと自分一人の力ではなし得なかったでしょう。特に最初から最後まで数々のアドバイスや励ましを頂いた青木さんをはじめ、義兄の天津さん、四国の民宿など宿の皆さんと数々のお接待をして下さった四国の方々、また道中出会った多くの仲間や、一緒に歩いて下さった楠田さん・金川さん・伊久美さん・浜上さん・宮本さん・森さんなどには、沢山の楽しい思い出をいただきました。

また、延べ43日間自宅を守ってくれた家族と、結願を喜んでくれた93歳と92歳の両親にも、充分感謝したいと思います。

最後に、このつたないレポートでも、多くの知人の方々に読んでいただき、またご批評いただき有難うございます。そして四国遍路を身近に感じていただければ、幸せです。

いつになるか分からないがもう一度ゆっくりと、是非四国を歩きたいと思います。65歳の退職後に、3日に一度くらい野宿をしながら……。その前に地元の坂東33ヶ所、秩父33ヶ所の巡礼を終えて……。

(その後の経過など)

- ① この3月に妻の姪の結婚式に京都へ行きます。その際に弘法大師の3大霊場のひとつ「東寺」にお礼参りに行く予定です。
- ② 帰宅後、懐かしい遍路仲間の東京の宮本さんと鎌倉の金川さんに会いました。遍路の話など時間の経つのも忘れて楽しい時間を過ごしました。
- ③ 職場でお客さんとの会話の中からお遍路の話が出た際、2名の方から『私も計画をしているが、もっと詳しい話を聞きたい。』とされました。そこで私のこのレポートをお渡しし、また装備なども求めて頂きました。そんなことで、この経験が仕事にも役に立ち、望外の喜びを感じています。

完